
排泄の念

高木和久

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

排泄の念

【Nコード】

N5369I

【作者名】

高木和久

【あらすじ】

これは、面白い社会風刺だぞ

この前、街を歩いていたら。
誰かに刺された

正直、これで楽になれると思った
银杏並木の中の公衆便所の大便室である
ちょうど夕刻だったので同じ^{むじな}狽はいなかった
排泄の刹那が襲ってきたとき
施錠を壊して。

怖い人が入って来て、胸を刺された
分身よ、せめて肥だめとして成仏せよ

信号向かいの交番は殺風景な気がしてたんだ
パンストを被ったおじさんは、あわてて僕の懐をあさっている
今日はお日様が真っ赤だ

ウルトラマンよりも短い命
もう一度アル・カポネに会いたい
あの娘が聴いたら悲しむかな

M78星雲の闇の中に、この体は浮遊し続ける
万有引力なんてどうでもいい
頭が重たくなるだけ。

屋外ではみんな戦争が始まると騒いでいる
そんな気がしたんだ

札束はちり紙替わりになりました
宣戦布告の号外は木枯らしに乗って、旋毛を描いている
明日は間違い無く雨だろう

どこの墓に入ろうか
先祖代々の墓はカビが生えているから嫌だ
男らしく、このまま流してくれ

開戦騒動の真つ最中、パンストは居なくなっていた
お元気で。精々長生きしろよ。
どこかで野良猫が鳴いていた
明日の新聞が心なしか楽しみである
眼の前が真つ赤になったと思ったら、なにも見えなくなった
もう近いのかもしれない
血圧が薄っぺらく
下半身は戦車のように重たい
両親に知れたらと思うと恥ずかしい
希望なんて排泄のようなもの
この世は便器の蓋でしかなかった

せめて明日が。
晴れでありますように
晴れでありますように

僕の躰はバラバラになって海を目指し、流されて行く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5369i/>

排泄の念

2010年10月11日22時03分発行